

# ばけものの世界

万寺十郎

真夏の夜の夢ものがたりにはばけものの話を一席お話したいとかがえております。

だいたい、ばけものが横行するにはやはりそれに適した環境というものがあるようです。怪談とかおばけ話のもてはやされた時代を顧みますと、その時代は世をあげて腐敗の極をきわめており、その臭気がよどみ停滞した時代が最たるものようであります。

今夜、わたくしがおばけばなしに思い

つきますのも此の暑さがさせる業かも知れません。精神的にも肉体的にもだらけきつた真夏の夜の物語にはばけものの話は最も似つかわしく冷たい井戸水一杯の役割をも果たすことだとも思いますし、科学文明の世界で怪しいばけものの姿をしかと見とどける機会を得たわたくしの責務でもあるかのようにも思えるからでもあります。

ばけものにもいろいろ種類がありまして、鬼・魔・悪神・狐・狸・猫などが化

けて出まして、それぞれが思い思いの化け方で怪しい姿をしては、わたくしの如きものを化かすわけでありますが、後のたたりを恐れ、呪文を唱えさせて頂きたいと思ひます。

無上甚深微妙の法は  
百千万劫にも遭過ること難し  
我今見聞し受待することを得たり  
願はくば如来の第一義を解せん

有難い法華経というお経が読みあげられてゆくわけですが、わたくしはこの文章を今古の大文章であると考えております。高さが四十里もある四角い大石を、しなやかな天女がどこからともなく舞いおりて来て、軟い天女の衣で山よりも大きい大石をひとなです。それも三年目にただの一度だけ、三年目三年目のひとながくりかえされて、きしもの大石がすりへり盡きて無くなる日を一劫と考えているのですから、百千万劫となると、こ

れはまたべらぼうに長い時でありまして、想像することも不可能のようであります。その長い時間を待つていても縁が無ければあいあうこと難しと云うのですから大変です。

おしやか様でないわたくしは甚深微妙の宇宙の真理とはまるで逆のばけものの話をしようとしているのでありますが、この話を聞いて頂けるとゆうことも誠に不思議なご縁だと思えます。文字があつてそれを読むといふことは如何にも自然のようであつて、あたりまえのようでもあります。が考えてみれば百万劫にあいあつたわけでありますから有難い偶然といふものでありましようか。

このばけものの話は最初から真夏の夜の夢物語のつもりで話しているわけでありまして、一杯の井戸水のつもりで話しているわけでもありませんから渴きをおぼえていない方はこの辺で席をたたれ、一眠りされて結構ですし、聞いてやるうといふ殊勝な方は最後まで頑張つて聞いて下

さつてもそれもまた結構なことだと思つておきます。

さて、わたくしの見ましたばけもののお話を致します。

徳島本線という汽車の通るところから六里も山奥の、人煙も疎らな溪流に沿つた村での出来ごとであります。今から二十年ほど以前のこと、丁度その夜も梅雨のような小雨が降つたりあがつたりしていた真夏のことでありました。知人の家で時を過し、一里余の道を徒歩で帰ることになりました。小雨はよいぐあいにやんでおりました。深い溪流に沿つた道を提灯の明を便りにいそいでいたのであります。提灯の明りには小さい燈明ろうそくを何本かもらつて来ていたので、燃えつきないまゑに新しいろうそくに継ぎたさねばなりませんでした。その時は運悪くマツチを待つていませんでしたので、明りを消してしまえば雨あがりの溪流沿いの夜道は危険で一步もあるけなくなるのです。夜はもう丑三つ時という頃合で

した。何本目かの新しいろうそくに火をうつそうとしていた時です。ろうが明りの上に落ちて、よわい火は冷たいろうに消されてしまいました。忽ちの暗闇に戸惑つた心の動揺をおさえようとつとめていました。滝の音がしていました。この場所はこんもりと昼も暗い繁みで、溪流は深い淵になつていてるところであります。ここは不吉なところとかで小さい滝の傍に石地藏が祀られているはずで、最も厭な場所に来ているのを知つて尙更心は不安に乱れ、立ちどまつたまま、知人の家へひきかえすか、それとも歩きつづけるか思案しておりました。と、地上に提灯の影が影絵になつて浮び出してくるので、雨あがりの夜には月も星もあるわけではなく手にした消えた提灯の影がうつているのははつと思つたとたんしんと冷たいものを感じました。わたしは目をそらしました。と、闇の眼前に、巨大な人がたが闇よりも濃い影絵になつてつ立つているのです。悪寒が背筋をはしり、全

身が粟立つのをおぼました。

田舎の老爺達の話では、狸とか狐とかのばけものに出合つた時の心得を説いて、そんな時には胡坐をかいてすわり、腰の蓑を一服か二服すうと良いとのこと、逃げ出せば、思わぬ怪我をするか悪くすると命を失う結果をまねくのだからです。

わたくしは巨大な人がたをじつとみつめていました。目をそらしてはならないと思ひました。恐怖に堪えて、いや、のがれられないと諦めてじつと動かないでいました。巨大な人がたは忽ちうすれ、消えて、またもとの闇にかえりました。

いまお話ししましたばけものは形から言いますと大入道というやつで、山笠に属するものだと考えられます。

妖怪変化というものは狐だとか狸だとかにかぎられたわけでは無いのでありまして、また軒先が三寸下る丑三つ時に出るものとも定められたわけのものでありません。人間の姿をしたばけものが人間

の世界、それも白昼、その上に公衆の面前に姿をあらわす場合も多多ありうるようであります。死んだ者が成仏しきれないで、この世に現われ、怨みごとをのべる幽霊という純朴な種類のものではありません。やんやの拍手に突に美事な演技をみせる場合もありうるのです。

では、第二話は白昼のばけものについてお話をすすめていきたいと存じます。

この種のばけものは人間の集るところには必ず一匹や二匹はいるもののようにあります、また化け方にも巧拙があり、巧いものほど世俗からのものではやされる率も多いようであります。民衆の万雷の拍手に応えて、ありつたけの演技をつくし、時には自分がばけものであることもわずれ、余りにも上手に人間らしくふるまつたため人間でもあるかのような錯覚におちいり、或は、第一義的な生きかたをしているかのような幻覚におちいる場合さえも生じて来ることになります。これはばけものの世界では喜劇と呼

んでおりますが、しかしこれは同時にばかされ、たぶらかされた善良な人間世界の悲劇を構成する要因ともなるのであります。

動物園で見かけられます狐とか狸だとかの動物が上手に人間をたぶらかし化けて見せることから推しはかつてみますに、もし人間が化けると仮定いたしますと、その化けかたの演出効果は狐や狸の比ではないことは論をまぢません。おぼけである人間はおぼけ競争の花形として登場し、新聞は花形役者であるおぼけの行状を細密に報道し、雑誌はこぞつてその雑文を掲載し、映画、写真と行く所すべて可ならざるは無という結果を生じ有名おぼけ人種が作りあげられるということになります。

これ等ばけものの特質を考察してみますに、第一に善良なる人間をばかすということが、一般庶民をたぶらかすということが考えられます。第二の特質はばけものがばけもの仲間では化けかたの演技を

競うということ、またそれを誇示するという点が考えられます。演技を競うということは一例をあげますと、四国に高名な狸がいて、慢心したその狸は海を渡り中国の狐と化けくらべをしてまんまと敗れたという民話があります。また化けかたを誇示する話では、調子にのつて小さく化け過ぎ口の中へ投げ入れられた大入道のお話。或は段々と背丈を高く伸ばし過ぎ、顔が雲の上まで出たとき脚もとを剃刀で切られてしまう大入道の民話などがあります。これらの話はまのぬけた滑稽味のあるお話であります。ばけ方の技術も老練なものになつてまいりますとばけものであるか、ばけものでないかの見分け方は至つて困難を極めるもののようにあります。

宗教・政治・教育というふうには現代社会の各部門にわたつてばけものの正体を究明してまいりますと、現代の世相が如何にばけものの生棲に適しており、如何に民衆がばかされ、毒されているかに驚

ろかれると思ひます。

ゴオゴリの短編に「肖像画」という作品がありますが、悪魔に芸術の良心をうりわたした無名画家がその代償として流石作家となり第一級の画家となつて行く経過が物語られております。かくの如き画家は現画壇にも生棲しておりますし、善良な観衆をして面白くもない絵を面白くと言わせ、芸術でないものを芸術だと誤認させようと勉めているようであります。

ばけものの生棲にもつとも適した世相に於ては、ばけものの正体を見破ることが急務ではなからうかと思ひます。こんな世相にあつては、どつしり大地に腰をおろし、其の洋服か二服でも吸うに限ります。ばけものの特性から考えてみましてばけものの化け方に讚美の拍手を送つたり、恐怖或は驚異の眼をむけることは最も戒めなければならぬことだと思ひます。笛を吹いても一般大衆が踊らなければ、おいおいにばけものは正体を現わ

してくるものでありまして、正体をみればみな枯尾花の類で、拍手したことも驚いたことも馬鹿馬鹿しく感じられてくるものであります。

枯尾花を枯尾花と見きわめがつけば、宗教界に於ける真の宗教者、教育界に於ける真の教育者の姿が掴めることもなり、自分を含めた一般大衆の立つていた場所の危きに驚くこともなるのであります。時々肩につばをつけて、或は頬をつねつてみて、ばかされていけないことを確かめてみたいと思ひます。

ほんものが通用する世の中が来ますことを願つて今夜のばけもののお話を終りたいと思ひます。どうか肩につばをつけてみて下さい。わたくしの話にばかされているのかも知れませんか。(詩人)

× × ×

× × × ×